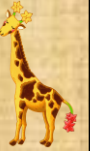


霧降高原

「キスゲ平」通信



Vol. 15 のトピック

2018 年(平成 30 年)
2 月 1 日 発行

- ・雪の上を歩く用具
- ・自然情報
- ・雪崩について
- ・お知らせ

雪の上を歩く用具

日本古来の雪上歩行用具 「輪かんじき」

たくさん積もった柔らかい雪の上を歩くと、足が深く潜って歩行は困難を極めます。そこで雪の上でも潜らないようにと、古来雪国の各地で作られてきたのが輪かんじきです。これを履くと足の裏の面積が大きくなり、あまり潜らないようになります。輪の部分は柔軟性のあるクロモジの枝できています。ただし雪国でも通常の生活ではあまり使われなかったと思われまます。主に雪深い山の中で獲物を追う猟師が使っていました。日光市では狩猟が盛んであった旧栗山村で使われていました。



輪かんじき

の芦峠(あしくら)寺の輪かんじきです。芦峠寺は立山麓の集落で、狩猟が盛んな土地でした。ここのかんじきはコンパクトで頑丈な作りであつたため、登山用輪かんじきのモデルとなりました

スノーシューの登場

輪かんじきに替わって登場したのが、欧米から入ってきたスノーシューです。足裏の面積を大きくして雪の中への沈み込みを小さくする原理は輪かんじきと同じですが、見るからにスマートです。二十数年の間にすっかり定着しました。前後に長いいため、輪かんじきに比べて面積が大きく、輪かんじきよりも沈み込みが浅くなるのが長所です。



スノーシュー

半面、前後に細長い形は急斜面の登下降には適しません。急斜面に対応するためかかとの部分が上げられるタイプもありますが、険しい日本の冬山では今でも輪かんじきが威力を発揮します。ただし登山用具店で売られている輪かんじきはアルミ製です。クロモジと麻ひもで作られた輪かんじきは今や民芸品の類になったようです。

スキーと比べると

スキーには斜面を滑り降りるアルペンスキーと歩くスキー・クロスカントリースキーがあります。輪かんじき、スノーシュー、クロスカントリースキーの3種の雪上歩行用具を比べると、最も沈まず足を前に出しやすいのはクロスカントリースキーです。ただし使えるのは平らな場所に限定されます。険しい山岳地帯では、輪かんじきが有利です。キスゲ平のような比較的傾斜が緩いところではスノーシューが一番適しているでしょう。

キスゲ平園地では無料でスノーシューのレンタル(3時間限定)を行っています。スノーシューで冬の自然を楽しんでみてはいかがでしょうか。



自然情報

スノーシューで歩いて探そう！

スノーシューを使って雪の上を歩くなら、ぜひ冬ならではのものを探してみませんか？今回はスノーシューを使ってキスゲ平を散策する際に、ぜひ探して欲しいものを挙げてみました。

動物の痕跡

雪は動物たちの足跡をくつきり残し、動物たちが身近にしていることを実感させてくれます。キツネやネズミ、シカなどさまざまな足跡を園地内で見かけることがあります。その中でも足跡を追って行つて楽しいのはノウサギの足跡。その特徴的な足跡は他の動物たちとの見分けは簡単で、細長い後ろ足と Y の字に見える全体像が特徴的。そして足跡と一緒に必ずと言っていいほど見つかるのがフン。これがまた特徴的で、直径 1cm ほどの深緑色の球体です。

マンサクのつぼみ

三月の終わり頃枯れ木の中に黄色の花をつける樹木「マンサク」。名前の由来も「まず咲く」が転じて、「マンサク」になったという説もあるほど、早咲きの植物です。咲き始めは三月中頃からなりますが、つぼみは1月中頃から観察でき、黄色い花びらがチラリと覗いています。園地内に数は多くありませんが、目立つところにあるので、探してみたいかがでしよう。



ノウサギの足跡



ノウサギのフン



マンサクのつぼみ

雪崩について

冬の山に入るのであれば、雪崩のメカニズムを知って対策と予防を身につけておくことが重要です。そこで雪崩について簡単にまとめました。

雪崩の起きる仕組み

斜面に積もった雪は、重力、地面との摩擦力、雪同士の間接合力が釣り合つて支えられています。つり合いが崩れた時に、雪崩が発生します。

2種類の雪崩

表層雪崩

積雪の上の積雪が落ちる雪崩。新雪の多く降る厳冬期に起こりやすく、一気に多量の積雪が積もつた時はどこでも起こる可能性があります。

全層雪崩

積雪全体が落ちる雪崩。気温が高くなる春先に起こりやすく、沢沿いなど毎年同じ場所で起こります。

雪崩対策グッズ

三種の神器「スコップ、ビーコン、ゾンデ棒」
雪に埋もれた人を助けるために必要な道具で、発信機と受信機のビーコン。被災者の正確な位置を知るためのゾンデ棒、掘り起こすためのスコップ。雪山に行くのならば必須の装備です。

新アイテム「エアバッグ」

エアバッグは、浮き玉のような役割となり雪崩の中でも雪の下に埋まるのを防ぎ、生存率を高めるといふものです。

冬の山を存分に楽しむためにも、装備や知識は徹底しなければなりません。

(参照 寒地土木研究所HP、ヤマケイオンライン)

お知らせ

冬季における園地の利用について

植生保護のため

立ち入り禁止になる場合

雪が積もる冬の間は園地内のどこでも散策が可能ですが、雪不足の時や雪解けの時期では、地面が露出している場合があります。植生保護のため地面が露出している場所の立ち入りを禁止させていただきますので、ご協力お願いいたします。

滑走について

園地内においてスキーやソリなどの滑走は可能ですが、歩道の柵やほかの利用者との衝突にご注意ください。またケガ等の責任は一切負いかねますのでご了承ください。



17.1/20 年明け以降暖かい日が続き、融けてしまった。

【発行】